

授業力向上のキーは「模擬授業」。具体的に、授業改善を進める取組

今回は、「授業力向上」に向けた取組として、「模擬授業」を取り入れた校内研修を行っている有明南小学校の與賀田校長先生にインタビューをしてきましたので、その内容を御報告します。

有明南小学校の取組の内容

「模擬授業」を取り入れた校内研修

- ・学習指導案の簡略化
- ・教室で行い、授業者の課題を焦点化
- ・発問や板書について、具体的な検討

教師が学び合い、授業をつくり上げるために

- ・児童役として発問や板書を検討、教師役に意見を述べる。
- ・教師役として代案を示し、発問や板書の説明をする。
- ・児童役として参加した先生から出た問いをグループで考える。

校内における教職員の学び合い

○クラウド環境を活用した知識・経験の共有
財産化（「南ペディア」の作成）

- ・「指導法や学級経営の百科事典」と位置付け
 - ① テーマを決め、クラウド上アプリに、疑問点等を出し合う。
 - ② ①に関する知識、経験を書き込む。
 - ③ 意見交流を行う。

○低・中・高・特別支援グループでの主任制

- ・学年の垣根を越えて相談しやすい体制にする。
 - ⇒若手が安心して取り組むことができる。
 - ⇒ベテランの先生に「学年が違うから」という遠慮がなくなることで、異学年間の交流が進む。



【與賀田校長先生】

與賀田校長先生へインタビュー

Q1 「模擬授業」を重視されているのはどうしてですか。

A1 本校のような単学級編制の学校は、授業や学級づくりにおいて学年の垣根を超えて相談しづらい面があります。そこで、職員での学び合いを充実させたいと考え、模擬授業の取組を始めました。（自身の経験上）、研究授業前の学習指導案の検討では文言の検討が中心になり、具体的にどのような主発問や補助発問をするのか、一人で考えることがありました。授業者の学びだけでなく、みんなが協働で考えることで学びを深めたいと模擬授業の方法を取り入れました。

Q2 模擬授業を通して、先生方の授業力は向上していますか。

A2 先生方が日常的に学び合う姿が見られます。相談しやすい先生が身近にいることが、授業づくりにおける不安解消にも役立っていると実感しています。ベテランの先生が若手のモデルとなったり、若手がICTの活用についてリードしたりする場面が見られます。

